

東国文化自由研究レポート



研究テーマ

群羊馬は東夷倭国の都なのでは!!

提出日 2023年 8月 21日 (月)



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1年 1組 17番

氏名

小暮 燎真

■テーマ： 群馬は東夷倭国の都なのでは！？

■調査の動機や目的：

「えっ！古墳時代の道が約12mもの幅!? しかも真っすぐな道!?!」

「えっ！東京国立博物館に群馬県、特に伊勢崎市出土の埴輪がたくさんある！」

祖父から教えてもらい、大変驚きました。当時、なぜそんなに広い道が必要だったのか？日本一の博物館に展示されていたのは、群馬県の埴輪が多く、地元伊勢崎市の埴輪「貴婦人の像」がメイン展示されていた。この事実だけでも、群馬は『実は大きな勢力をもった特別な国だったのではないか?』と考えました。

我が家のすぐ裏を通っていると言われている『東山道』を通して、下の①～③調査によって、テーマについて検証してみようと思います。

■調査項目

①群馬で発掘された東山道

②東山道の周辺から発掘された伊勢崎市の遺跡

③古代の伊勢崎市、群馬県の地位

◆①群馬で発掘された東山道

平安時代、日本は「五畿七道(ごきしちどう)」と呼ばれる8ブロックにまとめられていました。東海道、東山道、北陸道、山陰道、山陽道、南海道、西海道の七道が、都から放射状にのび、日本の官道としてメインストリートでありました。官道とは、都と日本全土66ヶ国の国府を結ぶ流通ネットワークであり、その開発と整備は、古くから政府の重要課題として取り組まれていた。東山道とは、畿内から長野、群馬、東北地方へと通じる官道のことを言います。

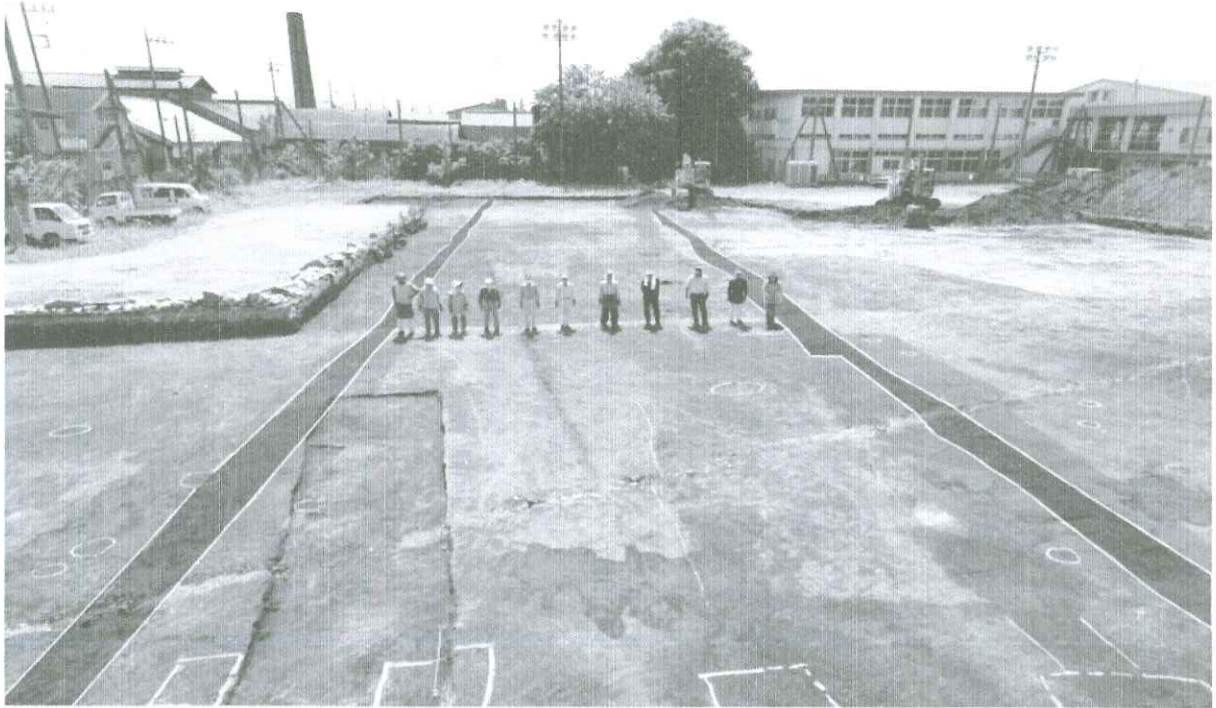


その遺跡の道路は、約 12m もの幅で、昔の道なのに、側溝が付いている真っすぐな道路。不思議に思い、図書館や知人の資料を使い、群馬県内で発掘された東山道について、比較してみました。

発掘場所	道路の幅		
東山道公園(太田市新田大町) (牛堀・矢ノ原ルート)	約 12-13m	両側に側溝付き	10 km一直線であることが確認されている。
旧安中高校(安中市安中)	約 10m	両側に側溝付き	直線道路
砂町遺跡(玉村町) (牛堀・矢ノ原ルート)	約 6.5-7.5m	両側に側溝付き (側溝含めると幅 9-10m)	直線道路



■太田市新田大町で発掘された東山道

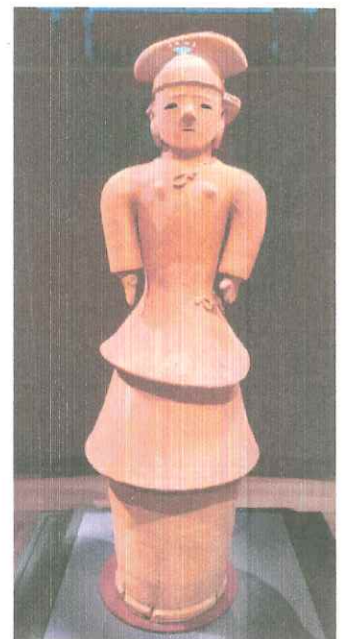


■旧安中高校から出土された東山道

◆②東山道の周辺から発掘された伊勢崎市の遺跡

母から、東京国立博物館の常設展示場に、伊勢崎市の埴輪『貴婦人の像』がメイン展示されていると聞き、大変驚きました。『日本一の博物館の一番メインの場所に、伊勢崎市の埴輪がある。』伊勢崎市に住んでいる方みんなに教えたいと思うほどに、感激しました。

それだけでなく、東京国立博物館で展示されていた埴輪は、群馬県出土のものが多く、中でも伊勢崎市から出土されていた埴輪が約11体あり、一番多かったように思います。このことから、伊勢崎市は古墳時代重要な場所だったのでは？と、このことから推測できます。よって、伊勢崎市の遺跡場所と東山道の関係について調べてみました。



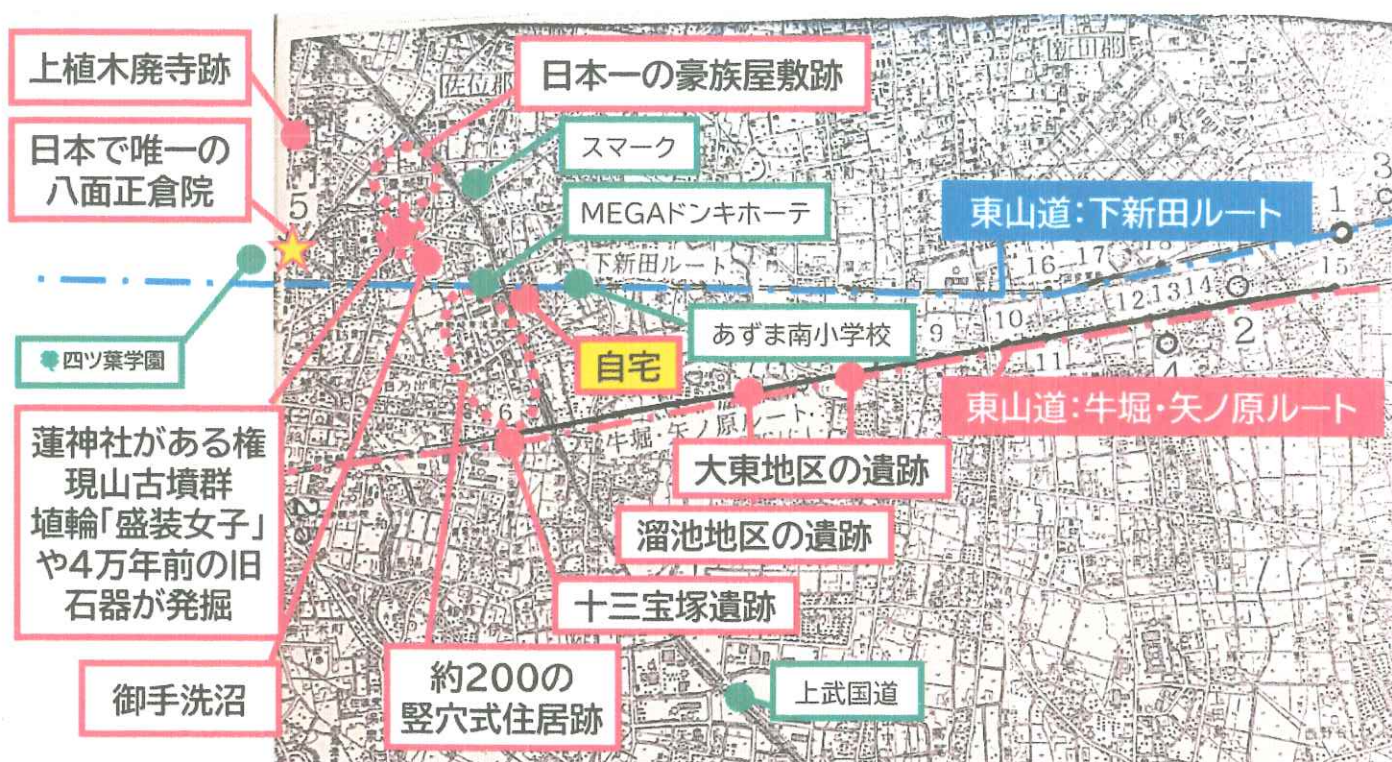
← ↑東京国立博物館に展示されている伊勢崎市の埴輪

次に、資料「歴史講座 記録集 史跡上野国佐位正倉跡」に、伊勢崎市を通過する東山道の地図を使って、近隣の遺跡などと結びつけてみました。

「下新田ルート」「牛堀・矢ノ原ルート」あたりに、大きな遺跡が発掘されています。

不思議なことに、現在の施設(スマークや MEGA ドンキホーテ、あずま南小学校、私が通う四ツ葉学園など)が、下新田ルート上にあることです。

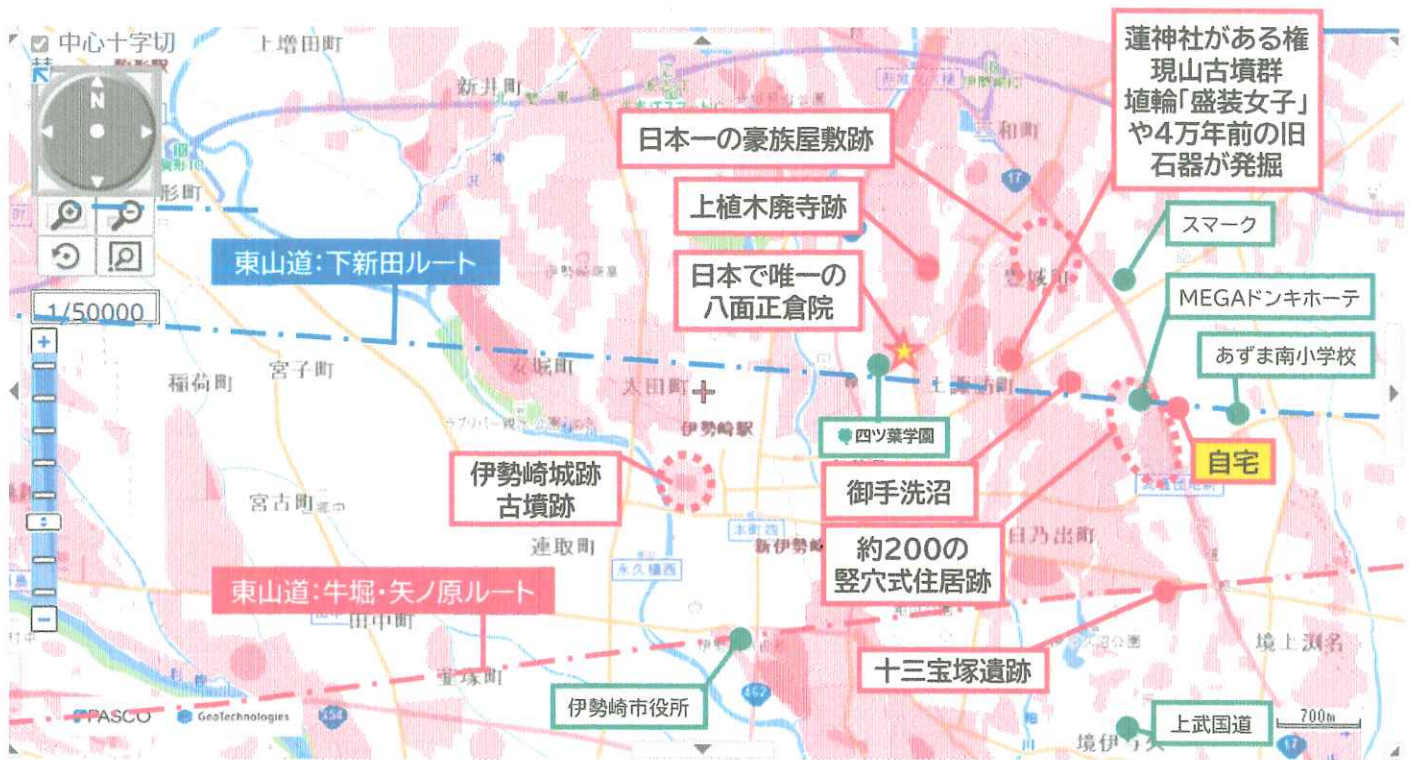
さらに驚いたことは、祖父が言っていたように、自宅もルート上にありました。私のご先祖様は、約 670 年前(新田義貞が負けた後)に太田市から澁名荘を治めなさいと時の領主:大島義政の命で、現在のところに引っ越してきたと伝わっています。ご先祖様は、下新田ルートの場所を理解した上で、現在の場所に館を構えたのだろうと推測できます。



マッピング群馬の遺跡地図を使って、東山道近辺の遺跡などについて調べてみました。

驚いたのは、2つのルート之间に、伊勢崎城後があったこと、伊勢崎市役所がルート近くにあることです。

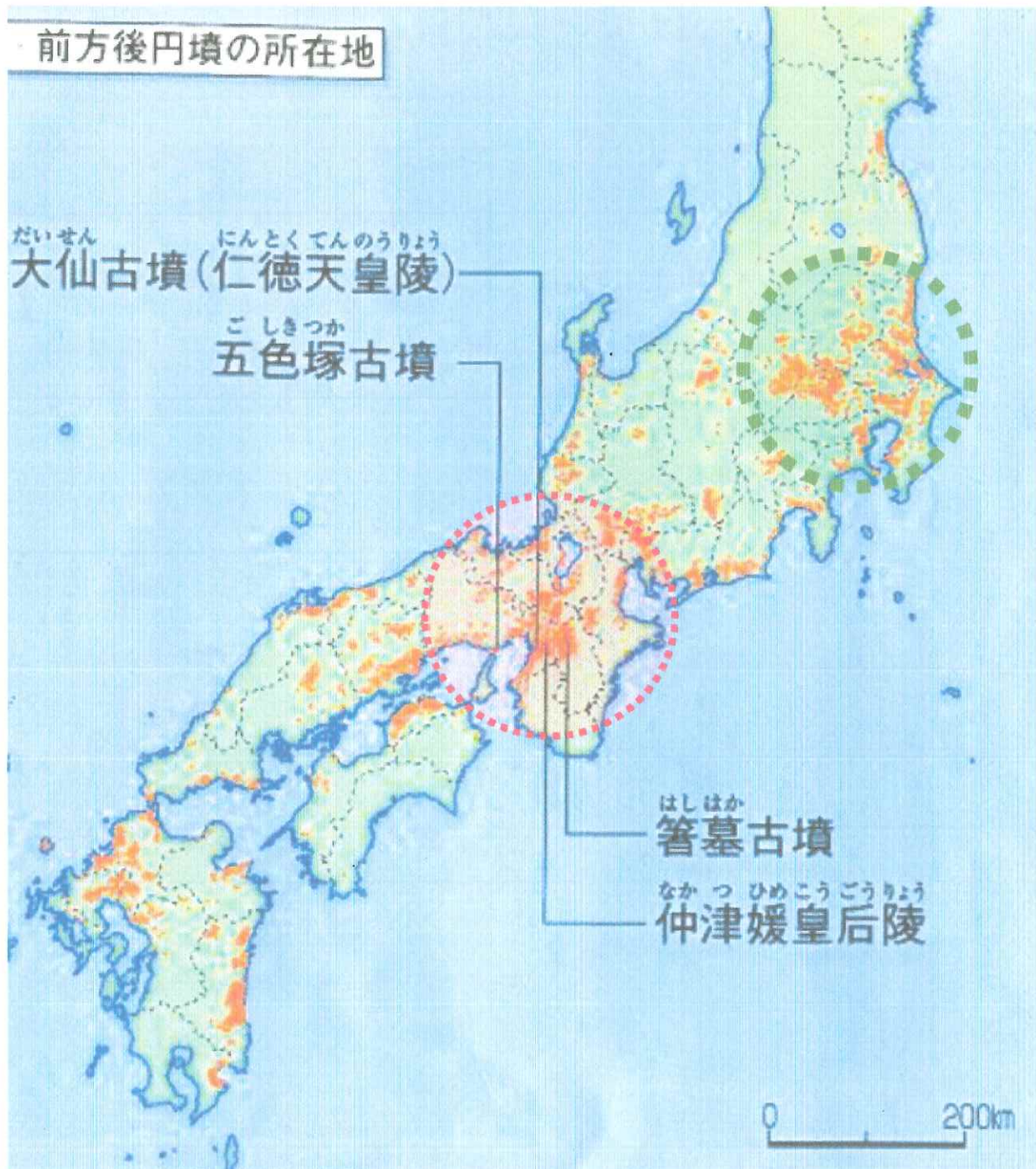
時が変わっても、ルート上に主要建物や遺跡があることは、ということなんだろう？ その場所が、ただの「道」だけでなく、便利な場所、運気の良い場所を繋いだのが「道」なのかもしれない、そう考えました。



◆③古代の伊勢崎市、群馬県の地位

◆古墳の分布から考えた

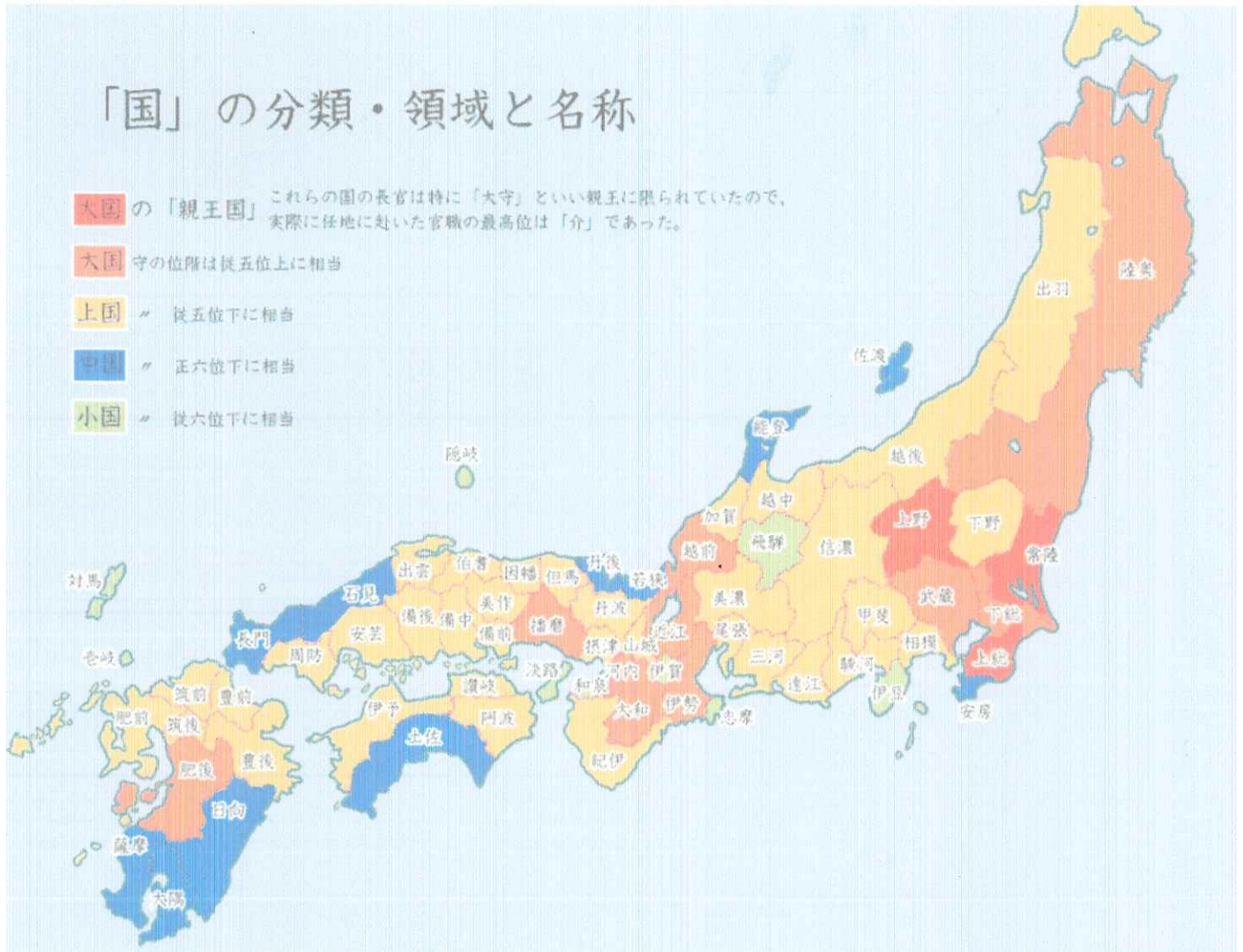
全国にある前方後円墳の地図を見てみると、大きく東日本と西日本に分布があるようにみえることから、昔の日本は2つに分断されていたのかもしれないと推測できます。その中でも、群馬県の中毛・東毛地区にはたくさんの古墳があることから、大豪族が多く住んでいた場所、主要な場所ではないかと推測できます。



面白い地図を見つけました。

平安時代に定められた「延喜式」により、国内約 66 の国に「大国」「上国」「中国」「小国（または下国）」というランク付けが行われました。そのランク付けの一番の基準は、国の生産力、政治上軍事上の重要さであったようです。

驚いたのは、群馬県が「大国」で、一番ランクが上であることです。



上野、上総、常陸の三つの国には、新王が「太守」として長官を務めることになっていたと説明がありました。北関東は、現在知名度ランキング最下位ではありますが、太古の時代は逆に主要な場所です。これは、ということなのか？このエリアが強いあまり、『渡来人系の民族に封印されたのでは？』と、母から怖い話を聞きましたが、もしかしたら本当なのかも知れません。1 万年も平和な時代を築いていた縄文時代の日本人、本当の日本人の DNA をもった民族が、東日本にいたのかもしれない。その中心地が、群馬県なのではないでしょうか？

さらに調べてみると、律令制度が完全に崩壊した後も、統治の実態は様々変わりつつも「国の領域と名称」は明治維新で廃藩置県が実施されるまで存続したそうで、現在でも地名その他の伝統的な名称の中に、旧国名は数多く残っているとの説明がありました。

この説明でビビットきたことがあります。

伊勢崎市内の町名に「宮」や「寺」に関連する地名がたくさんあることです。伊勢崎市には、「宮子町」「宮前町」「宮古町」「東上之宮町」「下道寺町」「大正寺町」「阿弥大寺町」「山王町」「豊城町」「上諏訪町」「豊受区」などがあります。地名から都？宮？のような主要な場所が伊勢崎市にあったのではないかと推測できます。

■まとめ

①～③の調査により、古代の群馬県は、東日本の中心地であったことを声を大にして言えるのではないのでしょうか？よって、「群馬は東夷倭国の都」であること、さらに伊勢崎市は古代群馬の中で主要な都市だったと言えるのではないのでしょうか？

東山道を通して、群馬県、伊勢崎市に対する自分なりの新しい発見に大変驚き、ワクワクしました。私が住んでいる場所は、実はスゴイ場所なんだと。

今回の調査で、自宅、母校である「あずま南小学校」「四ツ葉学園」が、ほぼ東山道：下新田ルート上にあるかもしれない！と分かったことは大きな発見です。

祖父から、1108年の浅間山の大噴火で、群馬の素晴らしい歴史的建物や文化が喪失してしまったと。自宅がある伊勢崎市でも、20～30 cmもの灰が積もったと、聞きました。

今、群馬の歴史が少しずつ表に出てきて、評価されるようになってきたら嬉しいなあと思います。群馬県が古代の日本の中心地であったことに誇りを感じるし、昔この地にどんな歴史があったのか、もっと知りたいです。そして、声を大にして『群馬県はスゴイ！』と胸を張って言いたいです。そのためにも、引き続き、群馬県・伊勢崎市の歴史について歴史や文化を調べていきたいと思っています。